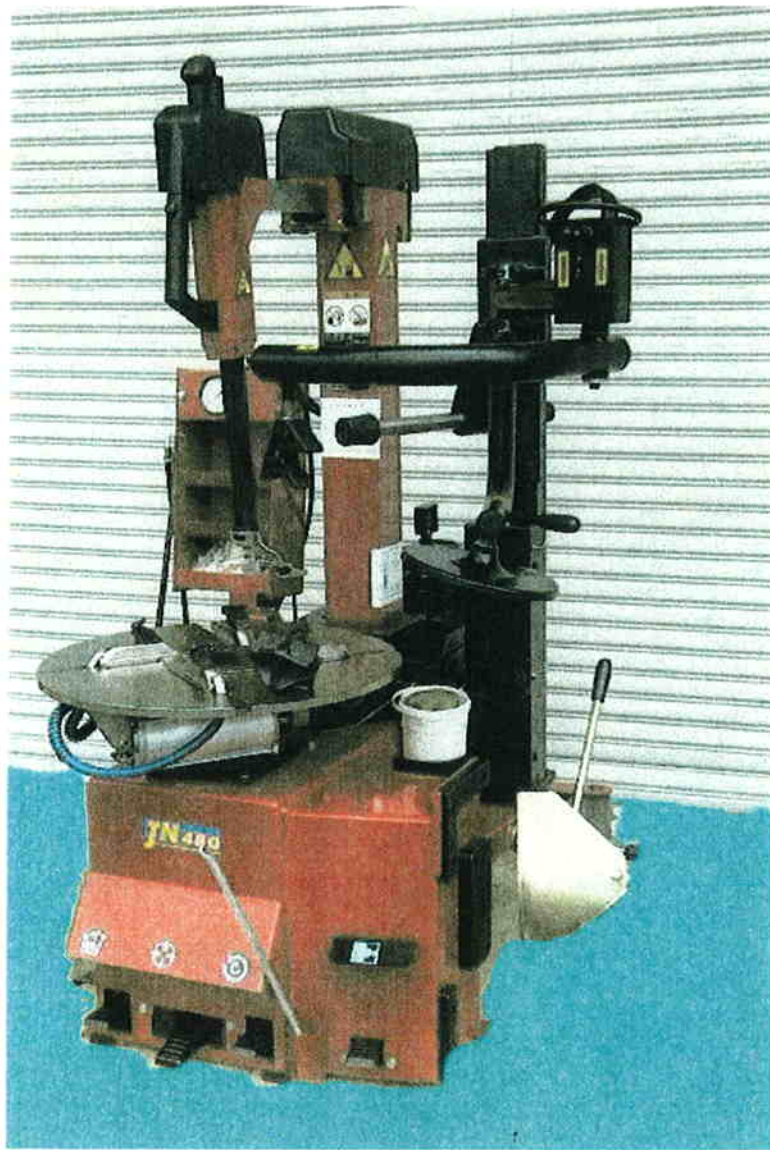


# JN480

## 取扱説明書



株式会社パングタイヤサプライズ

## 目 次

	ページ
1. 0	初めに. . . . . 1
1. 1	使用範囲 . . . . . 1
1. 2	注意 . . . . . 1
1. 3	安全基準 . . . . . 2
1. 4	名称. . . . . 2
1. 5	仕様 . . . . . 3
1. 6	機械の寸法. . . . . 4
1. 7	付属品. . . . . 4
1. 8	オプション品. . . . . 4
1. 9	一般的事故予防策. . . . . 5
1. 10	安全装置. . . . . 5
2. 0	運送方法. . . . . 5
2. 1	開梱方法. . . . . 5
2. 2	設置場所. . . . . 6
3. 0	設置方法. . . . . 6
3. 1	空圧の接続. . . . . 7
4. 0	コントロール (操作方法) . . . . . 9
5. 0	タイヤの着脱に関する注意 . . . . . 10
5. 1	チュープレスタイヤの取り外し. . . . . 10
5. 2	” 組み付け . . . . . 12
5. 3	” 給気. . . . . 12
6. 0	チューブタイプタイヤの取り外し. . . . . 13
6. 1	” 組み付け. . . . . 13
6. 2	” 給気. . . . . 14
7. 0	バイク用タイヤの組み付け／取り外し. . . . . 15
8. 0	メンテナンス(保守). . . . . 15～16
9. 0	機械の移動 . . . . . 16
10. 0	機械の長期放置. . . . . 16
11. 0	廃棄. . . . . 16
12. 0	トラブルシューティング／原因／対処法. . . . . 17

## 1. 0 初めに

この度はJN480タイヤチェンジャーをご購入戴き誠に有り難うございます。

このタイヤチェンジャーは、簡単な操作性・ホイールリムの安全な取り扱い、そして信頼性とスピードを特徴としてデザインされました。

最小限のメンテナンスとお手入れで正しい機能、動作をします。

使用法、メンテナンス及び操作上の必要事項がこのマニュアルに集約してあります。

## ■ 注意

設置後使用中にも参照することが出来るように、このマニュアルは大切に保管して下さい。

又、この機械をご使用になる前にこのマニュアルを丁寧に読み、完全に理解してからご使用下さい。

## 1. 1 使用範囲

JN480はワンピースリムに装着されたタイヤの脱着及び給気を行うために製造されたタイヤチェンジャーです。

最大タイヤ径 — 1000mm

最大タイヤ幅 — 381mm

この機械の能力を超える使用は絶対に避け、この機械が作られた目的の為のみご使用下さい。そうでない使用は不適切で不合理な使用とみなし、そのような使用によって引き起こされたいかなる故障及び故障及び事故についても製造者は一切の責任を負いかねます。

## 1. 2 注意

このマニュアルは製品の一部です。

安全やメンテナンスについて大変重要な情報が詰まったこのマニュアルの警告や手順を注意深く丁寧に読んで下さい。

1. 3 安全基準 

- A. 機械を使用中、又はメンテナンス中は事故防止の為の全ての法規及び規定に従って下さい。
- B. どのようなメンテナンス又は修理を行う場合でも予めエアラインを外しておいて下さい。
- C. 機械を使用、メンテナンス又は修理するときにはネクタイ、鎖(チェーン)、その他のルーズな物品は身につけないで下さい。長い髪の毛もまた危険ですので帽子の中に入れて下さい。  
作業者は手袋、安全靴及び保護眼鏡等適切で安全な服装を身につけて下さい。
- D. 安全装置を常に所定の位置に置き作動可能にしておいて下さい。
- E. 乱雑な場所は事故が起きやすいので作業場は常に片付けておいて下さい。
- F. 危険な環境を避けて下さい。空圧及び電動機器を湿気が多い場所や濡れた場所で使用しないで下さい。また雨にさらさないで下さい。
- G. 作業場所の照明は充分にして下さい。



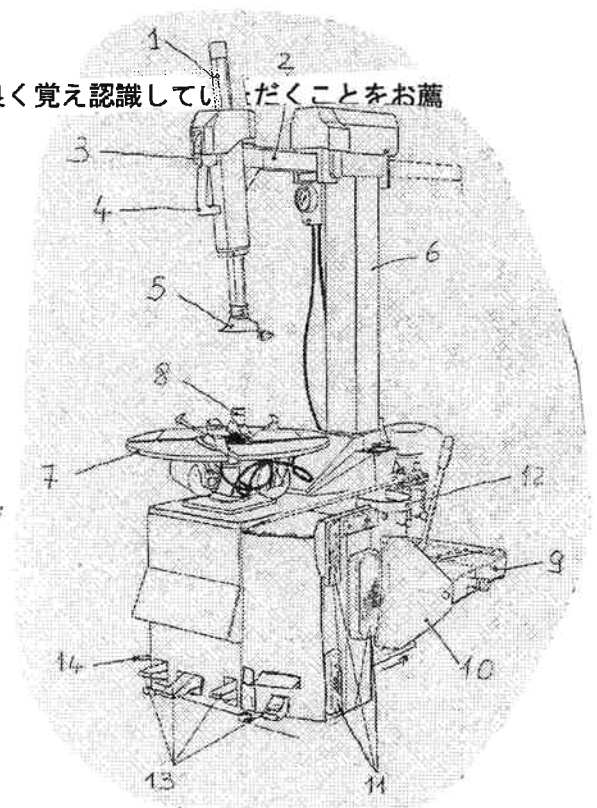
電気関係の結線は専門家が行ってください。

どのような修理も認可されたサービス技術者が行って下さい。

1. 4 名称

設置、操作の前にこのタイヤチェンジャーの各部名称を良く覚え認識していただくことをお勧めいたします。

- 1. 垂直シャフト
- 2. 水平スライド
- 3. ロックボタン
- 4. ハンドル
- 5. マウント/デマウントツール及びヘッド
- 6. タワーまたはコラム倒し
- 7. ターンテーブル
- 8. ジョウ又はクランプ(爪)
- 9. ビード・ブレイカー・アーム
- 10. ビード・ブレイカー・ブレード(刃)
- 11. ビード・ブレイカー・パッド
- 12. ワックスパケツ
- 13. コントロールペダル
- 14. ビードシーター/インフレーターペダル



1. 5 名盤

機械に貼り付けてあるラベルは下記データを表示してあります。

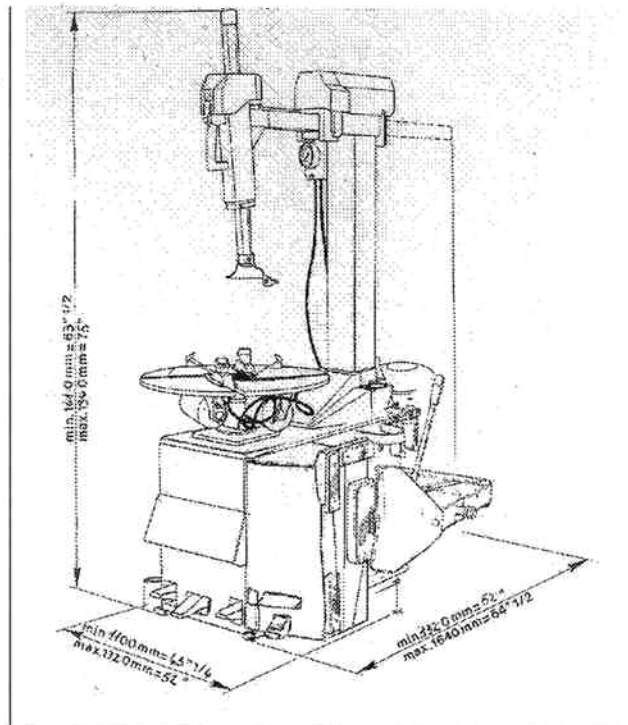
1. メーカー名/住所
2. EC同意マーク
3. 製造年
4. 型番
5. シリアル番号
6. 重量
7. 電気仕様
8. 空気圧
9. 騒音

1. 6仕様

重量	241KG
重量 (ビッドシタ仕様)	276KG
エア圧	8-12バール
ビッドブレーカー力	15kN
電気仕様	200V3PH50-60HZ
モーター	0.75kW
ターンテーブル最大トルク	1250Nm
テーブル回転速度	6-10RPM
最大ホイール径	1000mm
最大タイヤ幅	381mm
最大リム幅	3305mm
外締めリム径	10"-20"
内締めリム径	12"-22"
バイクタイヤリム径(アダプター使用)	15"-23"
騒音(通常作動時)	70dBA以下
騒音(ビッドシタ使用時)	120dBA

1. 7 機械寸法

(図 2)



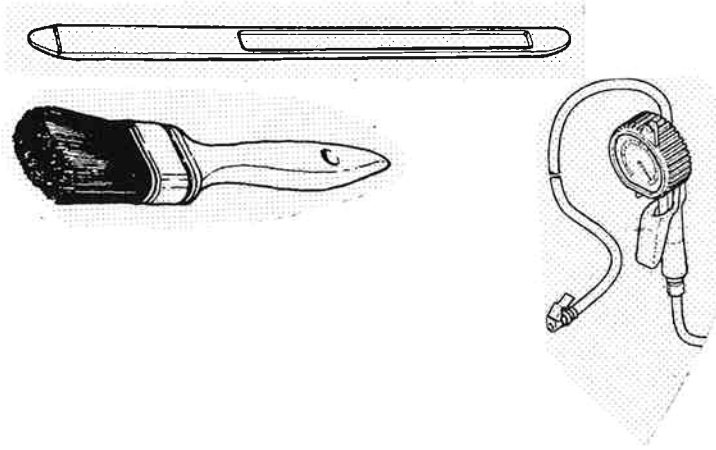
1.8 標準付属品

(図 3)

0001418 レバー

0001419 刷毛

0011298 エアーゲージ



注意

ビードシーター付きのバージョンでは (GT) エアーゲージはコラムに取り付けられます。

1.9 オプション品

#0015115 ライトアルミリムプロテクター (図 4)

ターンテーブルのクランプの上に滑り込ませアルミリムに傷が付くのを防ぐ。

#4003444 ビードヘルパー (図 5)

扁平タイヤ用

#4008254 8" アダプター (図 6)

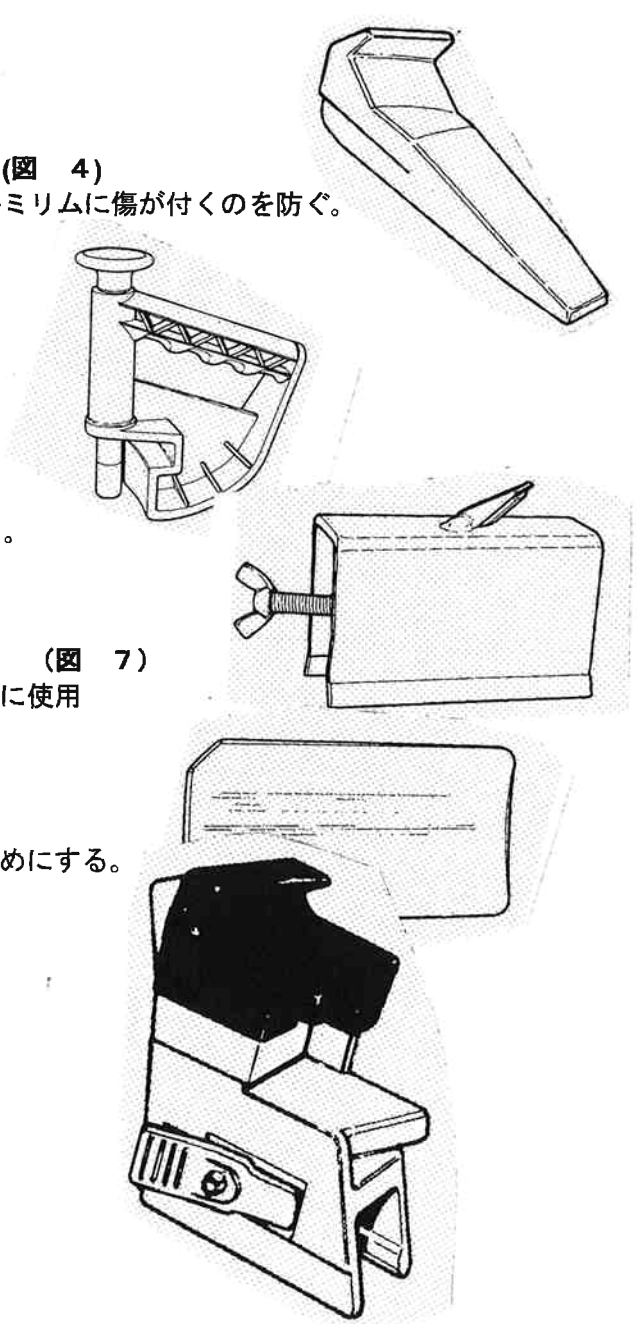
4つの爪に取り付けて8インチリムをチャッキングする。

#4008755 MC用ビードブレイカーブレード (図 7)

通常ブレードに取り付け、MCタイヤのビード落としに使用

#4015099 MC用アダプター

ターンテーブルのクランプに取り付けMCリムを外締めにする。



## 1. 9 一般的事故予防策



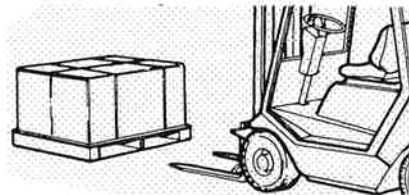
- A. 機械を使用中、又はメンテナンス中は事故防止の為の全ての法規及び規定に従って下さい。
- B. どのようなメンテナンス又は修理を行う場合でも予めエアラインを外しておいて下さい。
- C. 機械を使用、メンテナンス又は修理するときにはネクタイ、鎖(チェーン)、その他のルーズな物品は身につけないで下さい。長い髪の毛もまた危険ですので帽子の中に入れて下さい。  
作業者は手袋、安全靴及び保護眼鏡等適切で安全な服装を身につけて下さい。
- D. 安全装置を常に所定の位置に置き作動可能にしておいて下さい。
- E. 乱雑な場所は事故が起きやすいので作業場は常に片付けておいて下さい。
- F. 危険な環境を避けて下さい。空圧及び電動機器を湿気の多い場所や濡れた場所で使用しないで下さい。また雨にさらさないで下さい。
- G. 作業場所の照明は充分にして下さい。

## 1. 10 セーフティーデバイス (安全装置)

当機は圧力や潰れ等の害を防ぐためプラスチックで出来たプロテクターを備えています。ターンテーブルの回転速度は危険防止のため最高10rpmに押さえられています。又オーバーインフレーションによる爆発を防ぐ為給気圧制限装置が付いています。

## 2. 0 運送上の注意

機械は運送するためには十分な強度をもつダンボールで梱包されパレットに載せられています。この機械を運ぶときには図5のように適切な運送器具(フォークリフトなど)を用いて行って下さい。コラムを組み立てたままパレットに乗せる事も出来ます。その場合適切な強度を持ったベルトをコラムに巻き付け、機械を運送車にしっかりと止め付けてください。



## 2. 1 開梱方法

開梱をするときには、プラスチックの梱包バンドを切るときなど危険を伴いますので十分に注意して行って下さい。

カートンボックスを取り外した後に、目に見える範囲で機械及び備品が損傷を受けていないかチェックして下さい。問題があるときには販売代理店に連絡して下さい。

取り外した梱包材(プラスチックバッグ、ポリエチレン、釘、ネジ、木等)はその場に放置したり子供の手が届くところには絶対に置かないで下さい。大変危険です。それらの梱包材はその地域の法律に従って速やかに適切に処理して下さい。



開梱されるときには、梱包材との接触によって擦傷等のケガをする事が考えられますので必ず手袋を着用して下さい。

## 2. 2 設置場所

機械は屋根付きで乾燥しているところに設置して下さい。

設置に必要な敷地は、最低220CM×270CMです。(図 7)

作業者が機械全体とその周囲が良く見渡せるようなスペースを確保して下さい。

危険防止のため、作業者は許可なく作業エリアに立ち入る人や物を阻止して下さい。機械の設置には水平で出来るだけ表面が平らな床を選んで下さい。沈み込んだりでこぼこの場所には設置しないで下さい。

台の上や階上の床に設置するときにはその床が5000N/m<sup>2</sup>以上の強度のあるところを選んでください。

機械は必ず12X120MMのスクリューで固定して下さい。ドリルで12MMの穴をキャビネットの穴の位置と合わせて床に開けて下さい。木釘を穴に差し込んで、それにキャビネットの穴が合うように機械を移動して下さい。70Nmでスクリューを使って固定して下さい。

## 3. 0 設置方法

機械の設置は下記の通り行って下さい。

- A. ネジを廻してワックス用パケツを外します。  
ネジ“Z”を取ってカバー“U”(図8)を取り外します。
- B. クレーンやフォークリフトでコラム“P”(図9)を吊り上げます。この作業には二人が必要です。ホースを傷めない様に気を付けて下さい。キャビネット“C”の穴“G”をホース“T”を通して下さい。
- C. 図8の様にコラム“P”をキャビネットにシャウト“A”、ナット“D”とコニカルブシュ“B”で固定します。

### 重要!

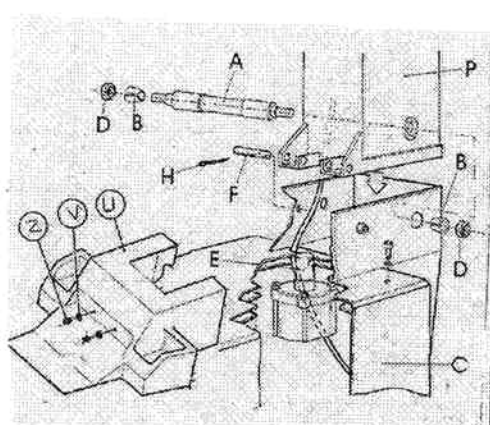
コラムをキャビネットの間に横へのクリアランスを無く様にナット“D”を十分に締め付けて下さい。

- D. コラムを後ろに倒し、シリンダー“E”のロッドを引っ張り、コラムにコッターピン“H”付のロックピン“F”で固定します。
- E. 図9のホース“T”をキャビネット下の減圧弁“R”に取り付けて下さい。
- F. 図9の様にネジで工具箱“S”を取り付けます。

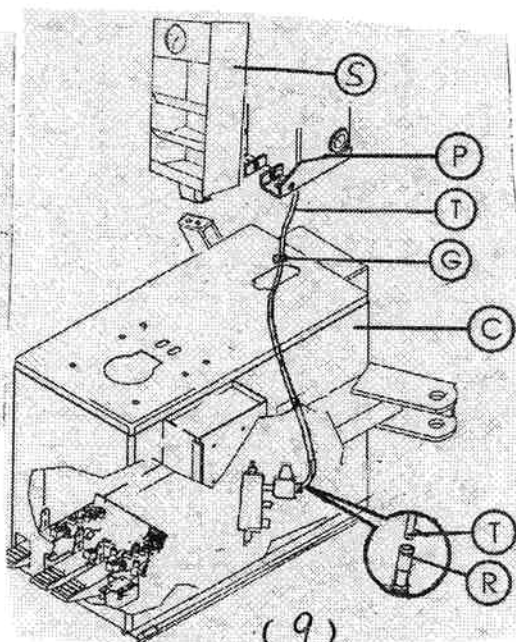


- G. 工具箱“S”からのホース“L” (図10) を装置“N”の継ぎ手“M”に継ぎます。
- H. カバー“U”をネジで固定します。
- I. ワックス用バケツをネジで留めます。
- J. タイヤチェンジャーを床に据え付けます。

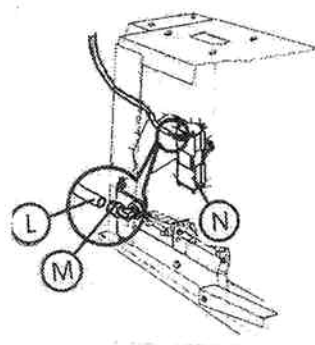
ビードシータータンクを使用する前に、地域の法令にのよりますが、使用場所のテストを受けなければならないかも知れません。



(8)



(9)



(10)

### 3. 1 電気の接続

#### 警告 ⚠

電気の接続は資格を持った人のみが行って下さい。

電源仕様が機械と同じか機械のプレートをチェックして下さい。機械 3相200V/50-60HZ です。電気仕様は電気ケーブルの端に記されています。電源に継ぐ前に、アースシステムが付いているかはチェック下さい。プラグに電気ケーブルを継ぎます。

タイヤチェンジャーを接続する前に、コンセントを確認して下さい。

ケーブルの黄/緑の線はアースです。アースの線を電源接続しない事。  
30Aに設定されたサーキットブレーカーが電源に付いているかをチェックして下さい。  
モーターは広範囲の電圧 (+/-10%) 及び50/60HZで作動します。また高温多湿にも適した絶縁材が付いています。


### 3.1.1 モーター回転チェック

最初に右のペダルを踏む、ターンテーブルが時計方向に回ります。反時計方向に回ればプラグの線を逆にして下さい。(茶と青を逆に)。

注意 

上記指示に従わないで引き起こされた如何なる損害もメーカーは補償致しません。

### 3.2 空圧接続

警告 

**空圧の接続は資格を持った人のみが行って下さい。**

エアー流入口横のキャビネットに貼ってあるステッカーの示すようにこの機械には8から12bar(110-170psi)の空圧が必要です。  
エアーホースを通ってくる空気圧が上記範囲であることを確認して下さい。

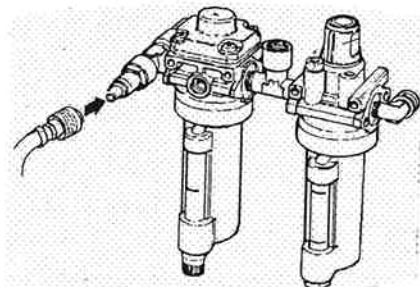
空気圧が8barより低いと、ターンテーブル上でホイールを掴む力が十分でなくなったり  
ビードブレーカーの力が弱くなり、危険です。  
エアー流入口から入り込む水の量を軽減するためエアー供給口にウォーターセパレーター〔水抜き〕を取り付けることをお勧めいたします。

注意 

エアーホースをつなぎ機械に空圧をかける前にターンテーブルの周辺に何も物(工具など)が放置されていないことを確認して下さい。

上記のことが全て確認されたら以下の手順で接続を進めて下さい：

- A. 内径6ミリのゴムホース(図11)で機械とエアー供給装置(最高気圧12bar-170psi)に接続します。
- B. どのような物でもオプションのアクセサリを取りつけられるときには添付の指図書に従って下さい。



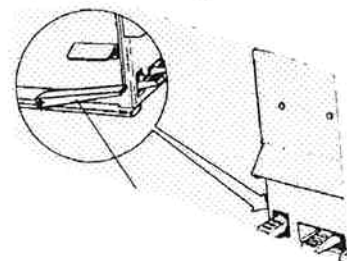
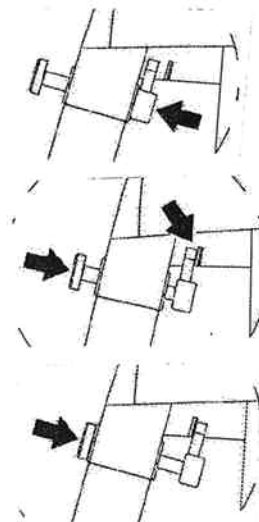
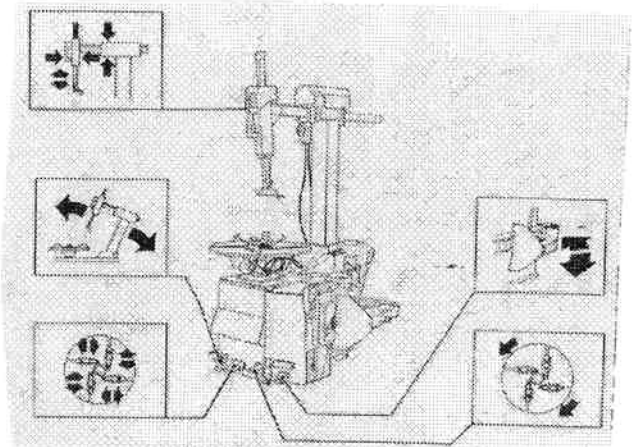
#### 4. 0 コントロール

実際に使用される前に、この機械の機能動作に十分慣れ親しみ、理解してからご使用下さい。  
(図12参照)

- A. 左から一番目のペダルを左足で踏んで離すとコラムが後ろに倒れます。  
もう一度やると、コラムは元に戻ります。
- B. 左から2番目のペダルを左足で踏んで離すと、ターンテーブルのクランプが閉じます。  
もう一度やると、開きます。ペダルを踏んで、最後のストロークまで行く前に放すとどの位置にでもクランプは止まります。
- C. 右から一番目のペダルを右足で踏み込んで保持するとターンテーブルが時計回りに回ります。
  - 1. ペダルを3/4程に踏み込むとターンテーブルの回転は最も遅く回りますが、トルクは最大です。
  - 2. ペダルを最大に踏み込むと、ターンテーブルは最速のスピードで回転します。ペダルを上げるとターンテーブルが逆時計回りに回ります。
- D. ビードブレイカーアームを開きます。右から一番目のペダルを右足で踏み込んだまま保持しますとビードブレイカーのブレードが機械側に向かって動きます。  
ペダルを放すとビードブレイカーのブレードは引っ込みます。
- E. ハンドルのプッシュボタンはアームを開放し、マウントデマウントツールを正しい所へ位置決めにします。

- 1. ロックを外してツールを上には上げるには、ボタンを人差し指で矢印方向（図13）に強く押します。
- 2. ロックを外してツールを下げるには、ボタンを親指で矢印方向（図14）抵抗があるまで押します。
- 3. ロックするには、ボタンを親指で強く押します。（図15）

- F. 機械の左側のビードシーター/インフレーターペダル（図16）を半分踏み込むと、ホースの先端からのみエアが出ます。



- G. ビードシーター/インフレーターペダルをすばやく踏み込むとインフレータージェット口から大量の空気が一度に出ます。エアーは同時にインフレーターホースからも出ます

インフレーターを作動させるときには必ず耳栓、安全眼鏡を着用しエアジェットによる騒音や巻き上げられるゴミ・塵等による危険を防止して下さい。

#### 5. 0 タイヤ着脱に関する諸注意事項

タイヤをホイールに組み付ける前に次のことを注意して下さい。

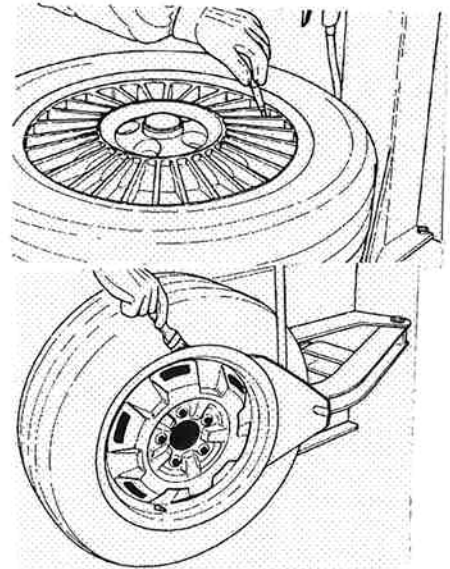
- A. リムはきれいで正常な状態でなくてはなりません。  
必要なら全てのバランスウエイト（張り付けウエイトを含む）をはがした後に清掃、塗装を行って下さい。

タイヤはビードやカーカスに傷が無くきれいで乾燥してはなりません。

- B.  
C. ゴム製チューブレスバルブを交換して下さい。もし金属製バルブであればOリングを交換して下さい。  
D. チューブタイヤの場合には、チューブが乾燥して正常な状態であることを確認して下さい。  
E. 正しくタイヤをホイールに装着し正確にセンタリングするためには潤滑剤を塗布することが必要です。専用の潤滑剤のみをご使用下さい。  
F. タイヤのサイズがホイールサイズに合っているか確認して下さい。

#### 5. 1 チューブレスタイヤの取り外し

- A. リムから全てのバランスウエイトを取り外して下さい。  
バルブもしくはバルブコア（ムシ）を外しタイヤの空気を抜いて下さい。（図17）
- B. 外側のビードをバルブ位置の反対側から落としていって下さい。  
十分にビードとリムの隙間に潤滑剤を塗布してください。  
内側のビードを落として下さい。  
ビードにダメージを与えることがありますのでフットペダルを必要以上長い間踏んだままにしないで下さい。

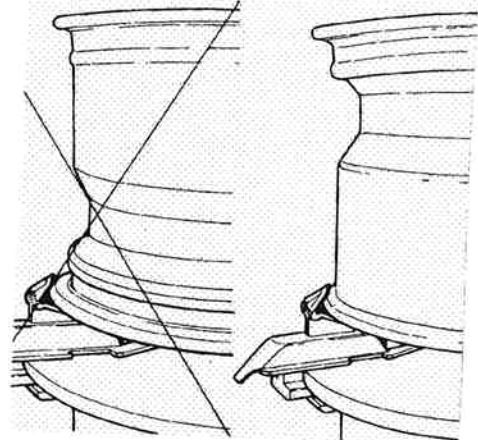


まんべんなくビードとリムに潤滑剤を塗布します。(図18)

- C. 内締めするときにはチャッキング爪を閉じた位置に、外締めするときにはチャッキング爪を開いた位置にセットして下さい。  
小さなホイール(14インチ以下)を外締めするときには、チャッキング爪の位置をホイールの径と同じくらい狭めてからホイールをターンテーブルの上に乗せて下さい。  
そうすることで、チャッキングする際にホイールを挟む事が防げます。

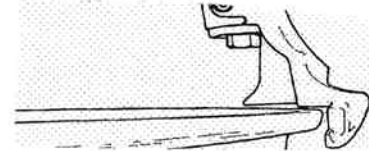
アルミリムは引っ掻きのリスクを最小にするために外締めでチャッキングしましょう。

- D. ドロップセンターの位置が上になるようにチャッキングして下さい。(図19)



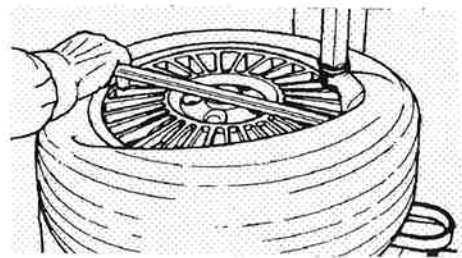
- E. マウント/デマウントツールをリムに接触させロックして下さい。ツールは垂直に自動的にリムとの間に隙間を作ります。ホイールへの傷を付けないためにはリムフランジとツールとの水平隙間は2mm程必要です。(図20)

注意：  
一度マウント/ディマウントツールが正しくセットされるとホイールのマッチングはヘッドをリセットしなくても変えることができます。

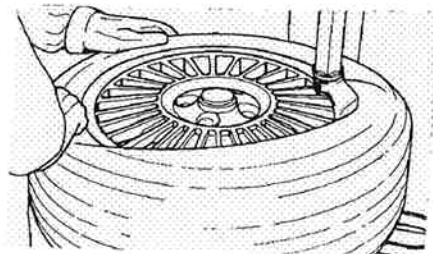


注意：  
マウント/ディマウントツールのプラスチックインサーション(挿入物)は、必ず定期的に変換して下さい。取り替え用のプラスチックインサートは標準付属品ボックスの中に数枚入っています。ご要望に応じてプラスチックインサートに換えてスチールローラー装着することも可能です。スチールローラーも同じ箱の中に入っています。取り替えパーツに同梱されている指示書に従って下さい。

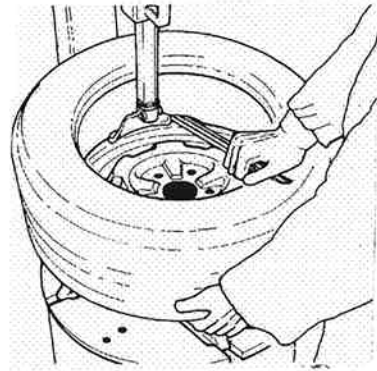
- F. レバーをビードの下に差し込み、ビードをマウント/ディマウントツールの背に乗せて下さい。  
この作業を簡単にするために、マウント/ディマウントツールがある反対側のタイヤのビードを左手で押さえて下さい。必要であればレバーはビードを落とした後取りのぞけます。(図 21)



- G. タイヤのサイドウォールを押さえながら、ターンテーブルを時計回りに回転させビードリムのドロップセンターの中に動かして下さい。(図 22)

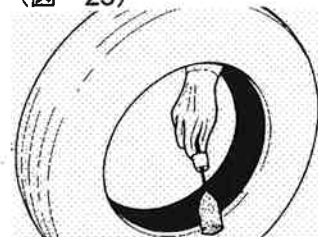
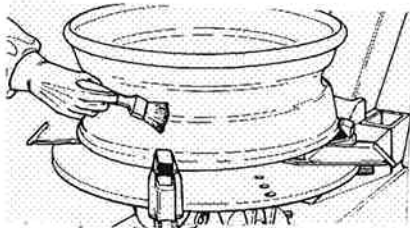


- H. 下のビードも同じやり方で落として下さい。図 23のように左手でタイヤを持ちマウント／デマウントツールと反対側の下のビードをドロップセンターまで持ち上げて下さい。スイングアームを横によけタイヤを外して下さい。



**5. 2 チュープレスタイヤの組み付け**

- A. リムの表面にまんべんなく潤滑剤を塗布して下さい。(図 24)  
ビードの外側・内側の両方にも塗布して下さい。(図 25)



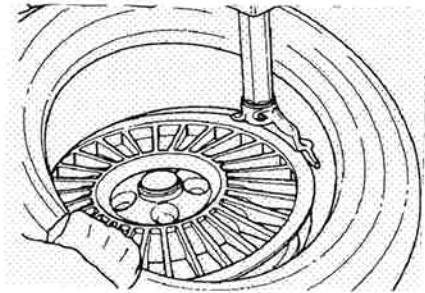
必要な場合タイヤの回転方向を見下さい。タイヤの中には常にホイールの外側に持つてこなくてはならない色の点がある物があります。



タイヤとリムにまんべんなく良質な潤滑剤を塗布することはタイヤを正しくセンタリングしてリムに適切に組み付けるのに必要な事です。適切な潤滑剤を使用しているか確認してください。

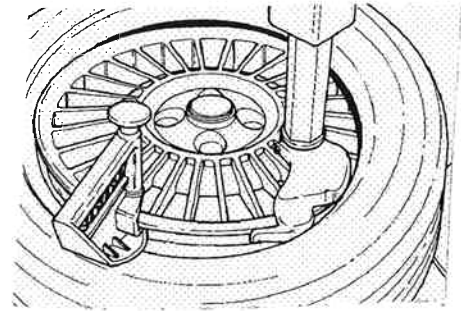
- B. ホイールをチャッキングし、バルブが5時の位置に来るように回転させます。タイヤをリムに組み付けるべく置きます。コラムを前方に倒すとマウント／デマウントツールは作業位置に来ます。コラムを倒す前に、マウウント／デマウントツールが違った位置にセットされていない事を確認して下さい。(ロックを解除して初期位置) さもないとリムエッジを傷付けます。

下のビードをマウウント／デマウントツールに引っ掛け手前のタイヤサイドウォールを(ビードがドロップセンターに入るように)押さえながら、ターンテーブルを時計回りに回転させます。(図 26)



- C. セクションBの指示に従って上のビードを組み付けます。  
(図 27)

扁平タイヤにはビードヘルパー“MX”(オプション  
#4003444)を使用しますと便利です。



### 5. 3 チューブレスタイヤの給気



両方のビードに十分に潤滑剤が塗布されていることを確認して下さい。  
タイヤに給気を開始し両方のビードが正しくシーティングされているか確認して下さい。  
正しい圧力まで給気して下さい。

メーカーが規定している最大圧を絶対超えないようにして下さい。

給気中はリムはクランプを外した状態でなければいけません。ビードがシートされた後のみクランプをかけて下さい。

給気中はよそ見をしたりせず、しっかりとホイールとエアゲージを観察しながら行い、特にオーバープレッシャー(過剰空気圧)をかけないように気をつけて下さい。

タイヤに給気する前にタイヤとリムの状態を良くチェックして下さい。

給気ホースのバルブや継ぎ手がしっかりシールされているのを確認して下さい。  
エア漏れは間違った圧力表示と危険を誘発しかねません。

作動していないときにはマノメーターの表示が“ゼロ”であることを確認して下さい。

タイヤ組み付け作業の中でもビードシーティングは最も危険を伴う部分です。  
取り付けられているリムよりも直径が1/2インチ小さいタイヤを組み付けることは可能です。しかし、このビードがシールされたときは適切な位置にシーティングすることは不可能です。

**爆発は大変重大な事故・死を引き起こします。**

間違った積み上げなどのため上下のビードが近づきすぎていたりしてリムにシールされなかったりする為、チューブレスタイヤの給気はときによって難しい事があります。

そういう場合はホイールは縦に床に置きタイヤゲージを使用して給気される間少しジャンプするような感じにします。

- A. 可能であれば 内側からホイールをチャッキングします。外側からチャッキングするとビードシーターの性能を軽減することがあります。  
B. バルブのステムに給気ホースを接続します。  
C. 両手でタイヤを持ち上げ上のビードがリムエッジにシートされるようにします。(図 28)



- D. 素早く給気ペダルを踏みます。持ち上げる動きによって上のビードは既にシールされています。ビードシータージェットからのエアがサイドウォールの底の方で跳ね返り、あるべき位置に追い込みシールしていきます。
- E. この章冒頭で表しました給気の完成です。



ビードシーターやインフレーターを作動させるときには必ず耳栓、保護眼鏡をして騒音、埃、エアジェットから吹き出す破片などから目や耳を守って下さい。

### 6. 0 チューブタイプタイヤの取り外し

- A. 5. 1.Aから5. 1.G迄のチューブレスタイヤの為の記述の通り操作してタイヤを取り外します。これはバルブがチューブの一部になっていて取り外せない場合です。



ビードをおとす過程でチューブに傷を付けないよう注意して下さい。

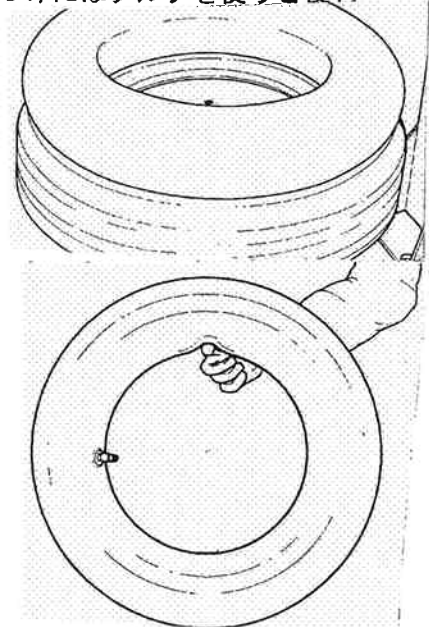
- B. 最初のビードを外すためバルブを3時の位置に置いて下さい。

タイヤレバーでマウント/ディマウントツールにビードを乗せるときに、チューブを引っかかないように気をつけて下さい。

- 5. 1. Hの説明の様に最初のビードを外した後2番目のビードを落とす前に、チューブを取り除いて下さい。

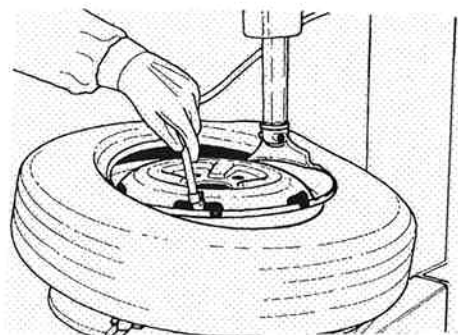
### 6. 1 チューブタイプタイヤの組み付け

- A. 5. 2. A・にかかれたとおりに行って下さい。  
チューブには潤滑油を塗らないで下さい。チューブの位置づけにはタルクを使うと便利です。
- B. バルブコアを取り付けたチューブをタイヤの上に置いてチューブのサイズが正しいことを確認して下さい。(図 29)
- C. チューブに少しだけ給気（人差し指で持ち上げると少し曲がる位）します。(図30)





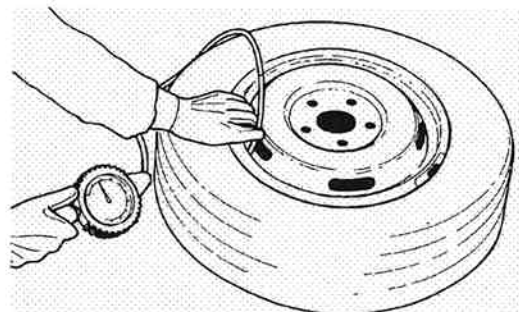
- D. 5. 2. Bの手順で最初のビードを取り付けます。タイヤの中にチューブを入れ、バルブをエアホースのチャッキングで止めます。(図 31)  
上のビードを上記で述べたように取り付けてください。



## 6. 2 チューブタイプタイヤの給気

ホイールをチャッキング爪から外しバルブをタイヤの中に押し込むようにしながら空気を入れて下さい。これはチューブとタイヤの間にエアポケット(隙間)を作らない為に必要な作業です。(図 32)

タイヤが正しくリムの上でセンタリングされ5. 3の手順での給気が完了しているか確認して下さい。



## 7. 0 MC (バイク) タイヤの取り付けと取り外し

MCタイヤの脱着には専用アダプターが必要です。(＃4015099 4個)  
ビード落とし、取り付け及び取り外しのテクニックはPC(乗用車)タイヤと同じです。

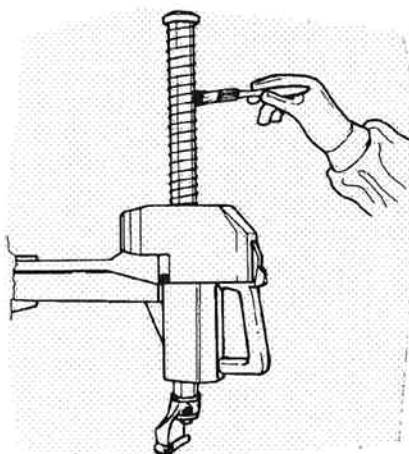
オートバイホイールは必ず外締めでチャッキングして下さい。  
チャッキング時は、供給空気圧が10バールを超えないようにして下さい。

## 8. 0 メンテナンス

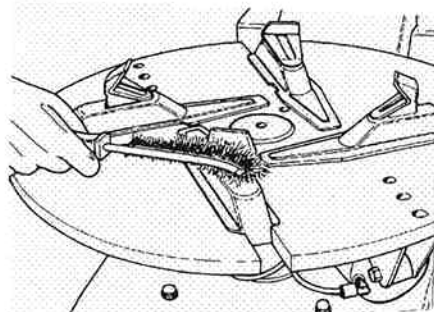


どのようなメンテナンス又は修理を行う場合でも電源と空圧源は切ってから行って下さい。

- A. 定期的にシャフトを不燃性洗浄液で清掃し、その後すぐにオイルを塗って下さい。  
(図 33)
- B. 定期的にターンテーブルを不燃性洗浄液で清掃し、乾かしてからチャッキング爪と接触するところにオイルを塗って下さい。



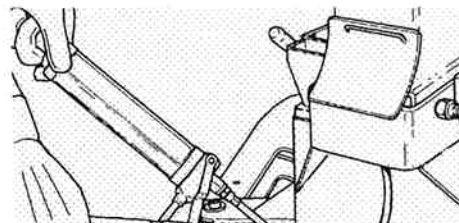
- C. 毎週チャッキング爪をワイヤーブラシで清掃しチャッキングプロテクターの摩耗をチェックして下さい。必要なら交換して下さい。(図 34)



- D. プラスチックの部品は定期的に冷水と石鹼またはマイルドな洗剤で洗浄します。

- E. 定期的にエアシリンダーのロッドにオイルを塗って下さい。

- F. コラムとキャビネットの接続部のシャフトに、4ヶ月毎にグリースを注入して下さい。グリースニップルで追加して下さい。図35



- G. ビードブレーカーパッドをチェックし、もし消耗が激しければ交換して下さい。

- H 'S' セパレーターから毎日水抜きを行って下さい。キャップ 'B' を引き抜くと水が抜けます。(図 36)

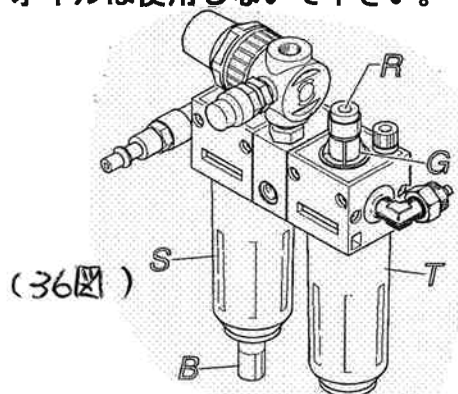
図36

- I. 毎週オイラーの油量を点検して下さい。オイラーにオイルを継ぎ足すときには先ず空圧源を外してメタルカップ 'T' を時計回りに1/4回転して外し、必要な量のオイルをつぎ足して下さい。(図 36) カップを再装着するときにはパッキングがちゃんとはまっているか確認して下さい。

**空圧装置用オイルのみをご使用下さい。  
ブレーキオイルやその他の指定されてないオイルは使用しないで下さい。**

**フィルター／オイラーユニット指定オイル：**

TAMOIL : WHITE MINERAL OIL 15  
SHELL : ONDINA OIL 15  
BP : ENERGOL WT3  
TOTAL : LOBELIA SB 15  
ESSO : MARCOL 82



(36図)

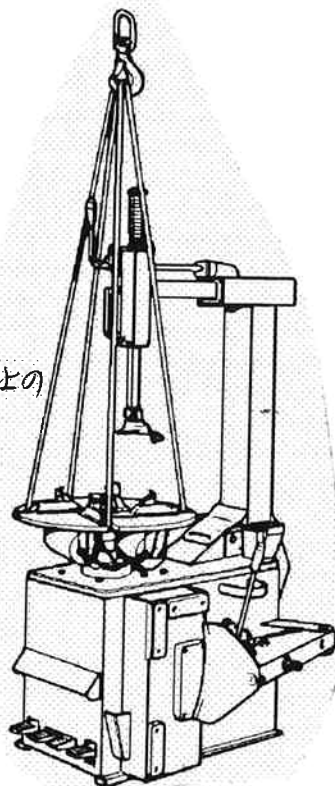
- J. 定期的にオイラーの調子を点検して下さい。2から3回ビードブレーカーを作動させるごとに一滴オイルが垂れる程度が、空圧システムの中に適切な量のオイルが散布されている状態です。必要な場合はスクリュー 'R' で調節して下さい。(図 36)

- K. エアタンクの水抜きを毎日行って下さい。

## 9.0 機械の移動

機械を移動させるときには下記の手順で行って下さい。

- A. 電源・空圧源を切って下さい。
- B. 移動中に落下すると危険なのでキャビネットやターンテーブル上の  
~~下さい。~~物を全て吊り上げ下さい。
- C. 図37のように持ち上げて下さい。ベルトは、長さ  
3000mm 許容量500kg以上の物を使用して  
下さい。金属製ベルトは使用しないで下さい。



## 10.0 機械の長期放置

長期(半年以上)にわたって機械を使用しないことになった場合は全ての電源、空圧源を外しダメージを受けそうな全てのパーツを保護し、乾燥によってダメージを受けそうなエアホースを全て保護して下さい。再び機械を使用するときには前述の保護されたパーツの調子を先ずチェックし、全ての機能が正常に作動するかを機械を再稼働させる前に確認して下さい。

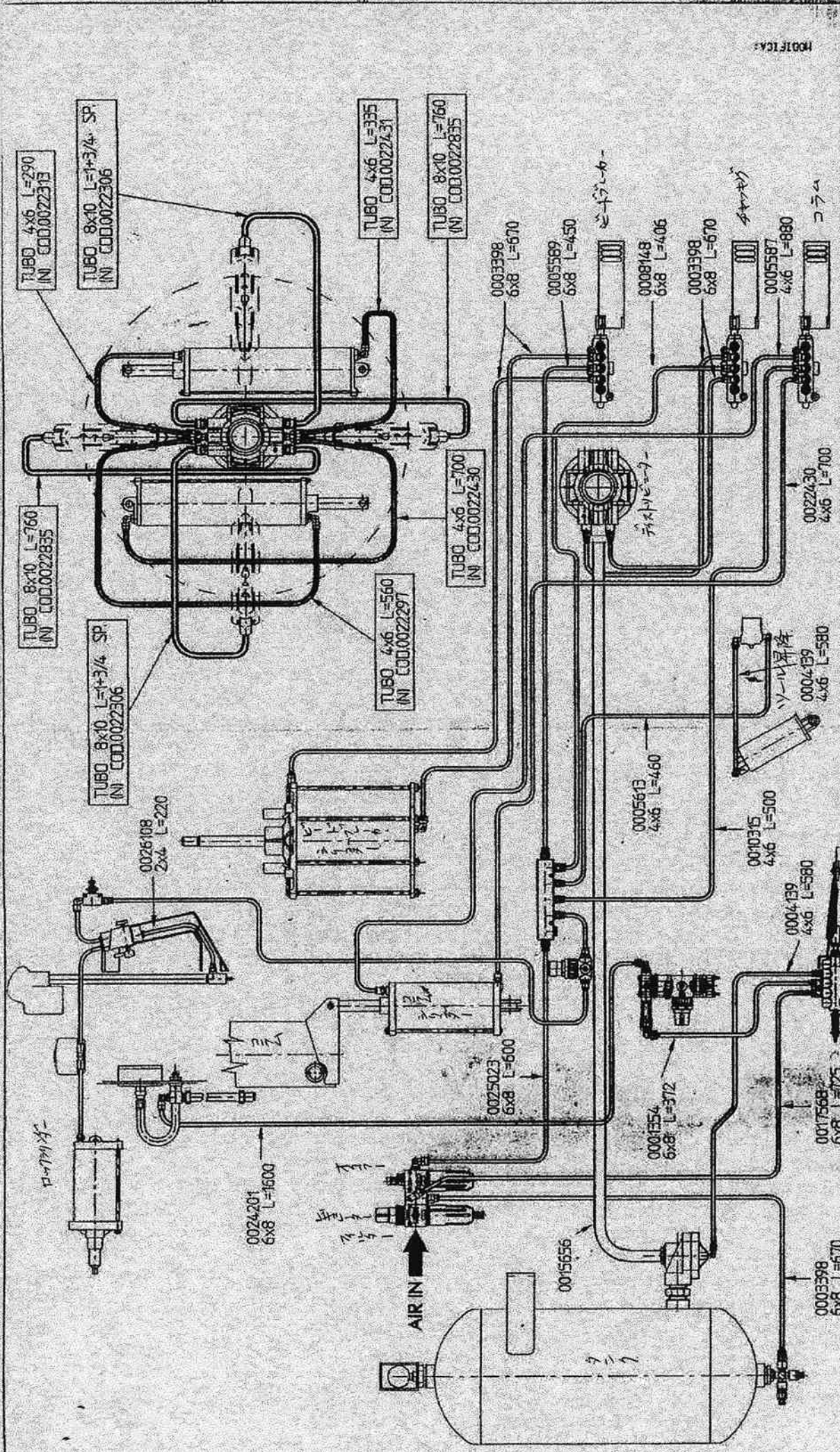
## 11.0 機械の廃棄

機械を廃棄する場合には必ずエア供給継ぎ手を取り外し、作動できない状態にしてから廃棄して下さい。

機械は特殊廃棄物と考え、機械を分解、分別し(金属、プラスチック、オイル、その他)地域の廃棄物処分規定に従って廃棄して下さい。

12.0 トラブルシューティング 原因 対処法

状況	原因	対処
回転ペダルを踏んでも、回転しない。	電源が入っていない。 スイッチ又はモーターがショートしている。	電源がON状態か。プラグがソケットの正しく入っているか。 電源と機械表示の電圧と合っているか サービスマンを呼んでください。
スイッチペダルが中立位置に戻らない。	スプリングの破損	中立の位置にペダルを上げてください。 機械の電源、エアーを切断します。 サービスマンを呼んでください。
コラムの傾斜、ターンテーブル、ビードブレーカーが かたいたい。	バルブスプールの乾燥(油きれ)	バルブリケーターとオイルの量をチェック
ビードブレーカーシリンダーに力がない	空気圧不足。 シリンダーシールの磨耗	バルブを掃除する。 空気圧をチェック サービスマンを呼んでください。
リムがすべる	爪が汚れている ターンテーブルの汚れ 圧力が低い チャッキングの爪が磨耗している	爪の歯を掃除する。 ターンテーブルを綺麗に掃除し、油を付ける。 空気圧をチェック 爪の状態をチェック。 サービスマンを呼んでください。
リムを傷つける	ツールのプラスチックが磨耗 プラスチックプロテクターの磨耗	ツールのプラスチックを交換する。 プラスチックプロテクターの交換
コラムの傾斜時に、コラムがぶらぶらする。	圧力が低い テイルシリンダーの故障	空気圧をチェック サービスマンを呼んでください。



MATERIALE	STATO MATERIALE	DIMENSIONI	TRATTAMENTI	HRC
TOLLERANZE QUOTE LIBERE AS 4 - B 4				HB
ORIGINE:				SN
0.5 mm				
FAMIGLIA 824	PROGETTISTA MARIAN	DISCREZIONE DATA 2007-02-13	SOSTITUISCE IL N.	
PRODOTTO 22LX	VISTO DIR. TECNICO:	SCALA		
	DESCRIZIONE JN-480		SOSTITUITO DAL N.	
	RENOVAZIONE		COD. SNAP-ON	
	SCHEMA TUBI ARIA SUPER -LX		REV	
			CS. N°	0027122

PROIECTA:

